

虫 供 養 当 日

地区の人によって花で飾られた虫供養会場は、のぼりが高くひらめき、百万遍念仏が同行衆によって唱和される「大道場」と、地区の人たちが鉦を鳴らし当番をする一番小屋から八番小屋まで建てられます。会場に来た人たちは順番に小屋をお参りしていきます。道場や各小屋では、町指定文化財の掛け軸を拝見することができます。

大塔婆には祭壇が作られ、ご祈祷した砂山で小さい子どもがお砂踏みをするため、多くの親子連れが訪れます。会場内は自由に入出りでき、町内外問わず、どなたでもお参りすることができます。

百万遍念仏

大道場では、導師の先導で、百万遍念仏と現世利益和讃が唱和され、大数珠が繰られます。百万遍念仏というのは阿弥陀仏という仏様に向かって「ナムアミダブツ」と百万回唱えたと願いがかなうというものです。

これからも虫供養が
続くよう念仏を唱える



椋岡虫供養(昭和16年)



草木虫供養(平成9年)



同行衆 導師 竹内 仁一

毎回、会場を立派に準備してくれる地区の努力に応えられるよう、誠心誠意念仏を唱えています。伝統ある導師を引き継いで11年たちますが、長く続けられるのも、この行事を大切にする地区の方と、一緒に活動する同行の仲間のおかげだと感謝しています。

地区を訪れる度に、地区の住民同士の助け合いと各地区同士の助け合いがあるからこそ、この行事が今日まで続いてきたのだと感じます。派手さはありませんが、愛知県の無形民俗文化財として、いつまでも長く続くよう、これからも念仏を唱えていきたいと思っています。



矢口虫供養(平成18年)



福住虫供養(平成24年)



宮津虫供養(平成26年)